



年頭のあいさつ

庄原市長 木山耕三

明けまして、おめでとうございます。市民の皆さんには、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は市政の推進に格別のご理解とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、庄原市子ども未来広場構想に基づき、2月には小児科診療所と病児病後児保育施設の運営に関する基本協定を締結しました。また、7月には庄原赤十字

本年は、これまでの積み上げを大切にしながら、新しい庄原の創造にチャレンジしてまいります。

ハード面では、庄原市子ども未来広場構想に基づき整備中の小児科診療所および病児病後児保育施設の運用を開始し、子育て環境の充実を図るほか、捕獲したイノシンなどを処理する施設を完成させ、処理に困っている方の負担軽減と、獣肉のジビエとしての活用など、効果的な有害鳥獣対策を講じます。また、超高速情報通信網の整備を進め、10月には市内全域で光回線を利用した緊急情報や行政情報の伝達手段に加え、超高速インターネット環境を整えます。

ソフト面では、本市の最重要課題と位置づける人口減少の問題について、官民が連携する仕組みをつくり、「オール庄原」の体制で取り組みを進めます。また、昨年策定した「庄原いちばんづくり」に基づく事業を推進し、地域資源の認知度

病院の婦人科に産婦人科常勤医師を迎えることができ、市民の悲願である産科の再開に向け、大きな一歩を踏み出すことができました。

そして、比婆牛ブランドの復活を契機に、県下では本市の子牛価格が上昇するなどの成果が表れ始めています。9月には、和牛のオリンピックともいわれる全国和牛能力共進会に、広島県を代表して庄原の和牛18頭が出場し、その優秀さを示すことができました。

さらには、高野から東城地域にかけて、国道、県道、市道を結ぶ路線を「比婆いざなみ街道」と命名し、沿線地域の活力向上と地域活性化の取り組みを進めています。10月には、「比婆いざなみ街道マラニック2017」を開催しました。全国各地から参加した多くのランナーに、庄原が誇る「おいしいもの」や「さとやまの風景」などを楽しんでいただきながら、地域の皆さんと一緒に庄原市をPRできました。

向上や観光客の増加を図ります。春には国営備北丘陵公園北エリアの一部を、特産品売り場や地産地消レストランの開設、イベントの実施など、来訪者と市民との交流拠点として活用する社会実験事業を開始するなど、新規事業への取り組みを始めるだけでなく、比婆牛やこだわり米に続くブランド開発に対する民間の動きにも注目し、市としてできる限りの支援も行っていきます。

今後とも、市民生活の向上を図りながら地域の魅力に磨きをかけ、庄原に住む方、来る方、全ての皆さんが「やっぱり庄原がいちばん」と思える“ふるさと”の創造に鋭意努力していきます。そして、市民の皆さんと協働しながら、一歩ずつ前に進んでいきたいと考えていますので、引き続き皆さんのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、新しい年が皆さんにとって幸多き年となりますよう、心より祈念いたします。新年のご挨拶といたします。

2017年を振り返る

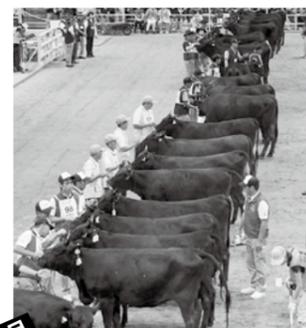


広報しようばらのバックナンバーは、市ホームページからご覧いただけます。

<http://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/government/koho/pr/>



5月 台湾の高校生が民泊体験 (平成29年は5校約900人が体験)



9月 全国和牛能力共進会に庄原市から18頭の牛を出品し健闘



10月 比婆いざなみ街道マラニック2017開催 (50kmの部に88人、10kmの部に141人が参加)



11月 市の取り組みが評価され総務大臣表彰